

平成 24 年度第 10 回小学校ゼミナール記録

2013 年 3 月 6 日(水)

参加者：市村（授業者），早田，新居，大橋

・議論内容

今回の小学校ゼミナールでは，広島大学附属小学校研究大会で行われた授業に対する反省会を行った。はじめに市村（授業者）から，今回の授業でどういったことを目標とし授業を行ったか，また研究大会以降どのように授業を進めたかが明らかにされた。その後，各個人から今回の授業における質問，意見等が発表された。

・市村の発表：

今回の授業では，表から数量の対応や変化の特徴を読み取ることが目標としたが，そもそも，第五学年の比例の単元は，「単位量」と「割合」に繋がる内容でなければならないという市村の見解から，今後は，異種の割合から，同種の割合に着目できるよう授業を進めた。

・大橋の質問：

今回の授業で平行四辺形の枚数が 1 枚ずつ増えるという固定観念にとらわれずに，底辺が増えるごとに面積が動的に変化しているということに気付いている生徒がいたが，その子の意見と取り上げて比例そのものについて説明しても良かったのではないかと。

・市村の返答：

今回は平行四辺形の枚数が一枚ずつ増えるという条件で考察しており，その子の意見を取り上げてしまうと授業の目標に沿わなくなるので今回は取り上げなかった。

・新居の意見：

表を書く活動に時間がかかりすぎたのではないかと。1 限目で比例の定義を抑えたのであれば，今回の授業は表を書く活動に時間を割くのではなく，与えられた表を基に比例であるかないかを考える授業にすべきだったのではないかと。

・早田の意見：

授業内での問題の焦点化が行われていなかったのではないかと。今回の授業では，表を通して二つの変数の値がどのように変化するかを知ることを目的とした問題と，比例であるものと比例でないものの違いを見出す問題の二つが存在したので，子どもたちは今回の授業で何を解決すべきかを明らかにできなかったのではないかと。今後の授業では，本時の目標を正確に定め，その目標を達成する「練り上げ」の場を設定することを期待する。